

『重度認知症者の医療とケア～倫理と実際』

重度認知症者は自己決定が困難であり、医療現場では理想とされる医療と実際に提供する医療との間のギャップなど倫理的問題に直面することが多々あります。本セミナー&ワークショップは認知症に対する多職種でのチーム医療・ケアのなかで“倫理と実際”に焦点をあて、理解を深めたいと思います。

2016.11.11 (金) 18:00～19:30

対象：医師・医療スタッフ(Ns, MSW, リハビリ療法士など),
介護スタッフ, 教育コース履修者, 学生等

入場無料

参加お申し込みは、認プロHPからお願いします。

場所：・金沢大学(医薬保健学域医学類教育棟地下大多目的室)
・富山大学(附属病院2階カンファレンスルーム2)
・福井大学(院生棟4階セミナー室)
・金沢医科大学(基礎研究棟3階大学院セミナー室)
・国立病院機構医王病院(臨床研究棟会議室)
・石川県立高松病院(医局会議室)
・国立病院機構北陸病院(特殊診療棟2階小会議室)
・谷野具山病院(共通棟1階ミーティング室)
・魚津緑ヶ丘病院(5階会議室)
・福井県立すこやかシルバー病院(管理棟2階応接室)
(テレビ会議システムにより各会場間で同時中継されます。)

I. 事例検討

本人の意思が確認できない、本人と家族の意見が合致しない、成年後見人制度の手続きにおいて家族内で論争が起こったなどの問題にどう向き合ったかについて、症例提示と検討を行います。

1. 『決定権者が不在で後見人制度を利用している一例』
福井県立すこやかシルバー病院
2. 『脱抑制と異食により対応に苦慮している認知症の一例』
石川県立高松病院

II. 講演

1. 『重度認知症の人が高く長く生きる
— 家族も一緒に豊かに生活するには —』(30分)



講師：片山 禎夫 先生(片山内科クリニック 院長)
略歴：広島大学医学部を卒業、同大学大学院博士課程を修了後、同大学附属病院第三内科、川崎医科大学、国立病院機構柳井病院、国立病院機構広島西医療センターなどで臨床医としてご経験を積まれ、川崎医科大学神経内科・特任准教授を経て、片山内科クリニック(岡山県倉敷市)院長として現在ご活躍中です。

2. 『終末期の医療とケアの倫理
— 人工的水分・栄養補給法を中心に —』(30分)



講師：会田 薫子 先生(東京大学大学院人文社会系研究科 死生学・応用倫理センター 上廣死生学・応用倫理講座 特任准教授)
略歴：東京大学医学系研究科 健康科学専攻博士課程修了後、ハーバード大学メディカル・スクール医療倫理プログラム フェローとして留学、その後、東京大学グローバルCOE 死生学の研究員等を経て、東京大学大学院人文社会系研究科特任准教授として現在ご活躍中です。

第一第二 一回認知症地域連携・多職種ワークショップ



文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム
北陸認知症プロフェッショナル医療養成プラン(認プロ)

※出席される方は受付で出席簿に氏名等をご記入ください。
教育コース履修者の方は本人保管用の受講票を受理の上、
検印を受けてください。

お問い合わせ：北陸認プロ運営事務局
〒920-8640 金沢市宝町13番1号
TEL:076-265-2149 FAX:076-234-4208
E-mail:ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp
URL:http://ninpro.jp/